

右過去帳にて見れば、寛永二年に道仁歿し、其の子監物遺跡を相続し、寛永十六年に利常卿三男侍從利治君分封ありて、大聖寺へ入部の際従士と成るに付き、新立町の居邸を返上せし故、其の揚地の内貳拾間四方に門前之往來相添へ、瑞光寺の寺地に賜はりたるものなりしにや。

○瑞光寺觀音堂

此の觀音は、國運寺の觀音とて靈像也と云ふ。國運寺は瑞光寺の本寺にて、卯辰山感應寺の南なる谷合にありしかど、數年無住に付き、後寺院破却して瑞光寺へ合併せり。故に彼の觀音今は瑞光寺に安置す。觀音由來書に云ふ。當寺觀世音之尊像は、慈覺大師之御作也。往古尾張國愛智郡熱田郷保多と云ふ所の海中より出現し給へる靈像にて、足利尾張守高經の末葉斯波武衛家代々傳持の守本尊也。然るに當國津田氏の元祖源正勝は、武衛之末裔なるが故に、此靈像を傳來して守本尊となしたり。慶長の頃正勝故ありて本國尾張の地を出で、暫し京都に寓居しける處、彼尊像の靈示に依りて、慶長十四年北國へ下向し、前田家へ仕官せられ、卯辰山國運寺へ安置し、寛文九年四月始めて開扉す

云々と。又左の文書あり。拙寺兼帶之所、卯辰國運寺安置仕慈覺大師之作正觀世音者、往古より開帳仕來候。則享保十三年相願開帳仕候。其後寶曆十年開帳仕、其以後致中絶開帳不仕候。

以下略文

文政十三年寅四月

鷹匠町下 瑞光寺 印

長屋谷 傳灯寺

加州金澤三十三所觀音願禮歌に、

三番瑞光寺。まことより見るは佛の瑞光寺

すめるころの水の月かけ

按ずるに、右願禮歌は元祿頃の作なり。されば此の頃既に瑞光寺へ遷座し、爰に安置せしにや。

○川 御 亭

今上本多町川御亭と稱し、町名とす。此の地は倉月用水川なる思案橋の西方を呼べり。右用水川の邊なるゆゑに川御亭といふと。但し川御亭とて此の地に藩侯の離亭ありたる事詳かならず。一説に、昔本多氏下邸岩間屋の園内に亭ありて、近き頃まで亭の跡とて礎石残り。此の亭ありし地は

思案橋の近邊なれば、此の亭をばそのかみ川御亭と呼びたりし故に、此の地邊に川御亭の遺名あるにやといへり。

○思 案 橋

金澤橋梁記に、しあん橋本多家中とあり。此の橋は倉月用水川に架けたり。三州名跡誌に云ふ。本多氏の元祖安房守政重、吾が藩士と成り金澤へ來られし頃、手明けの者として、男達のきほひ者をば多く召仕はれけるに、此の者共毎日此の橋へ出で今日は西へゆかん東へ往んと思案しけり。依りて橋名に呼べる事と成りたりと。又柴野美啓の龜尾記には、昔此邊石浦野とて荒地なりしが、賊魁安藤四郎・藤塚小太郎・同伊豆などいへるもの、此地邊に潛伏し居たるを、天正八年柴田勝家の爲に討亡されたり。其頃しあん某といふ者此地に居住す。故に思案橋の橋名に遺れりといふ。一説には、本多氏元祖安房守政重當藩へ勤仕のはじめ、諸國の寄合武士附屬し來り、俠客などいふべきやうなる若者共、毎日四方に横行し、いつも此の橋上に集會し、東へや往かん西へや遊ばんと思案せしゆゑに、思案橋の名起れりと云ひ傳へたりとぞ。今按ずるに、兩傳説何れ正説な

らんか。

○石 浦 新 町

此の地は、昔は上石浦村の村地なるを、相對請地になし町家を建てたり。故に石浦新町と呼べり。改作所舊記に載せたる、寛文五年四月十八日石浦村彦兵衛・與三右衛門等連名願書に、私共在所御高之内、金澤廻り百姓共相對を以て、地子におろし、家をつくらせ申分、並御用地に被召上替地共に、今程家數多に罷成に付、諸事縮之儀百姓共難成、諸事縮之儀町方より裁許仕様に被成可被下云々。とあり。又同年の覺書に、散小物成御印帳之内、三匁油役石浦村請地新右衛門、右之御役銀百姓地相對下し之内、當年町方へ付渡り、地子肝煎之裁許分に罷成る。など見たり。按ずるに、元祿九年の地子肝煎裁許附に、石浦新町と載せられたれば、寛文五年に相對請地の家共を地子町へ合併し、町奉行の支配地と成りたる故に町名を建てたるなるべし。但し此の後更に請地となしたる分は、後々迄米地子にて、百姓町に居残りける石浦村百姓名の者取集め、後は笠舞村より取集めけるを、明治十二年郡地の分悉く町地へ屬せられたり。